

神戸港と樟脳・砂糖

神戸港は横浜港とともに日本を代表する貿易港として知られています。日本で最初のセルロイドは神戸の外国人居留地二十二番館にもたらされたものであるのは、これまで何度も述べてきたとおりです。

その神戸港から輸出した品物の中で主力だったものの一つに樟脳があります。明治二十七～二十八年の日清戦争により台湾が日本領となったからだろうと思われるかもしれませんが、実はそうではないのです。

そのことを述べる前に神戸港の歴史に触れることとしましょう。

神戸港が開港したのは 1868 年 1 月 1 日ですので既に開港してから 150 年以上が経ちました。直前に大政奉還、直後に鳥羽伏見の戦いという激動の時代で担当奉行が江戸に逃げ帰り一時閉港になるという波乱の船出でした。

その後、大商業地である大阪に近いということから日本を代表する貿易港に発展していきます。そして戦災、震災という二度の危機を乗り越えています。

この神戸港から輸出していた品目を見ますと茶、米、銅、綿などという特長があります。全国レベルでは圧倒的だった生糸が見当たりません。そして樟脳が明治～大正期にかけて上位を占めています。

年号	樟脳の順位	金額	一位の品名	金額
明治五年	五位	43,642	茶	1,156,987
〃 十年	四位	191,133	茶	1,569,332
〃 十五年	三位	589,341	茶	2,402,542
〃 二十年	三位	862	茶	2,803
〃 二十五年	五位	1,210	米	3,659
〃 三十年	八位	1,304	綿織糸	11,390
〃 三十五年	七位	3,324	綿織糸	14,897
〃 四十年	六位	5,027	銅	15,820
〃 四十五年	九位	2,824	綿織糸	32,514
大正五年	九位	6,146	綿織糸	39,814
〃 十五年	十位	5,699	綿織物	140,455

註:金額の単位は明治五～十五年は円。明治二十年以後は千円

先程、申しました通り樟脳の大生産地である台湾が日本領となったのは日清戦争以後ですから明治三十年以降に出てくるのは分かりますが、以前にも上位で出てきます。このような傾向が見られるのは神戸港だけで他の港には一切見られません。

樟脳は日本国内では佐賀、鹿児島などの九州、高知などの四国が主生産地ですので、門司港などでも輸出しているかと思えますが出てきません。

輸入に目を転じますと神戸港の特徴的な輸入品として挙げられるのが以下の表にあるように砂糖です。

年号	砂糖の順位	金額	一位の品名	金額
明治五年	八位	148,783	生金巾	1,102,371
〃 十年	四位	203,470	縮緬呉呂	695,394
〃 十五年	八位	110,316	綿織糸	1,215,501
〃 二十年	二位	1,031	〃	4,217
〃 二十五年	五位	1,343	〃	6,357
〃 三十年	三位	6,630	繰綿	35,050
〃 三十五年	六位	2,141	〃	66,874

註:金額の単位は明治五～十五年は円。明治二十年以後は千円

生金巾とは綿の平織物で縦横とも一本ずつ交互になっている物。縮緬呉呂はモスリンともいい綿の平織物一般を示す

神戸、樟脳、砂糖とくると思いだすのが鈴木商店です。鈴木商店の創業は明治七年ですが、それ以前に神戸では砂糖産業が存在していたということが分かります。

で、この砂糖で面白いのが大正から昭和にかけては輸出入ともに見られるということです。

年号	輸出入	順位	金額(千円)
大正六年	輸出	九位	8,220
大正八年	輸入	九位	16,290
大正十年	輸出	七位	5,494
大正十四年	輸入	十位	17,712
大正十五年	輸出	七位	7,845
昭和二年	輸出	七位	6,223
昭和二年	輸入	八位	14,493
昭和五年	輸出	五位	8,495
昭和五年	輸入	十位	7,362
昭和十一年	輸入	十位	5,952

これは原料を輸入して製品を輸出するという日本型貿易の特徴が出ている現象です。というのは輸入の砂糖は黒砂糖・赤砂糖などの未精製糖で、輸出は白砂糖すなわち精製糖です。

で、現在の輸出入がどのようになっているかというと既に十年以上に渡ってプラスチックが輸出の第一位となっています。そして輸入の第一位は十年以上に渡って衣類及び付属品となっています。そしてこちらにもプラスチックが十位以内に顔を出します。

日本を代表する貿易港の一つである神戸港はこれからも重要な位置を占めることとなるでしょう。